

「個の学びを保障する学習環境で、自分の課題にスムーズに取り組み、分かった！できた！を味わう」姿

単元名

大介さん（5年） 「2桁のかけ算」 宏明さん（1年） 「たすのかなひくのかな」

健一さん（4年） 「買い物しよう」

本時の目標

大介さん 2桁×2桁の筆算を、計算の順序や数字を書く位置を色分けして示したプリントを使って正確に行うことができる。（数量や図形についての技能）

宏明さん 問題文の場面を絵に表すことで、加法の場面なのか減法の場面なのかを判断し、立式することができる。（数学的な考え方）

健一さん 10円、100円の品物を複数買うときの代金を考え、30円、400円などの金額を言ったり、その硬貨を手渡ししたりすることができる。（数量や図形についての技能）

本時の授業について

自閉症の特性に配慮し、落ち着いて学習できる環境づくりが工夫されていました。その上で、学年、発達段階が大きく異なる3人の子どもに対し、個別の課題を設定し、個々の学びを充実させていました。「先生と一緒に学ぶ時間」をずらし、「一人学びの時間（自立課題）」と組み合わせることで、一人一人の子どもが、1時間にやることや順序が分かり、見通しを持って落ち着いて自分の課題に取り組めました。

大介さん	宏明さん	健一さん
①先生と一緒に	①自立課題1	①自立課題1
②自立課題1	②先生と一緒に	②自立課題2
③自立課題2	③自立課題2	③先生と一緒に
④自立課題3	④自立課題3	④自立課題3

「先生と一緒に」の時間 その子に合った方法で気付きや理解を促す支援

宏明さんは、「ねんがじょうが ぼくに 5まい きました。おにいさんには ぼくよりも 8まい おおく きたそうです。おにいさんには なんまい きたでしょう。」という問題に取り組みました。宏明さんは加法か減法か悩んでいましたが、いつも使ってきた宏明さん用の「計算問題シート」を使い、問題文の意味を1文字ずつ視覚化していくことで足し算のパターンであることに気付きました。

健一さんは、同一金種の硬貨が複数枚あるときの数え方が課題でした。津田先生は、健一さんの学び方の特性を的確に捉えており、長い説明的な支援を避けました。そして、「10円が1枚で10円」、「10円が2枚で20円」、「10円が3枚で30円」、「10円が4枚で？」と、これまで一貫して使ってきたフレーズで短いヒントを出しました。健一さんはいつもの方法であることが分かり、「40円！」と元気よく答えることができました。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ぼく	○	○	○	○	○										
おにいさん						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



40円かなあ？  
400円かな？

（先生）10円が4枚で？

40円！  
そういうことか。分かったぞ！

自閉症の特性に応じた個の学びを保障する学習環境

津田先生は、友達が気になるという特性のある3人の子どもに対し、個別の学習スペースを設け刺激量を調整することで、それぞれの子どもの心理的に安定して学習に臨むことができるように環境を整えていました。また、個別の引き出しに、1時間で取り組む教材やプリントが準備されていました。このことで、集中できる時間が短く、そわそわしたり歩き回ったりしがちな大介さんや宏明さん、やることや順番が分からないと不安になる健一さんが、それぞれ安心して、自ら進んで学習に取り組んでいました。



引き出しの中に1時間に取り組む課題が準備され、上から順に取り組むようになっていきます。終わったものは上のかごに入れ、「先生と一緒に」の時間に持っていきます。

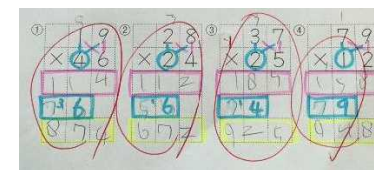
次は、何かな？  
これは、前に津田先生と一緒にやったからできそうだ！

意欲を持って一人でチャレンジし、学習内容の定着と自信を高める自立課題

津田先生と1対1で学ぶ時間とともに、「一人学びの時間」も充実していました。この自立課題は、これまで津田先生と一緒に学び、子ども自身が「一人挑戦したい」、「できそうだ」という手応えを感じている内容から意欲的に取り組めるものが用意されていました。

大介さんは、2桁×2桁の筆算の課題に取り組みました。津田先生は、大介さんのこれまでの学習の様子から、つまづきやすい点を具体的に予想し、計算の順序、数字を書く場所が視覚的に分かりやすいように色分けしたプリントを用意していました。その支援を手掛かりに、大介さんは一人でも注意すべき点を意識しながら計算問題に取り組むことができました。この日初めて全問正解して花丸をもらい、津田先生とハイタッチをして共に喜び合いました。

「できそうだ」という意欲と見通しを持ちながら、学習内容を定着させ、一人でも「分かった！できた！」という自信を深めた大介さんの姿の裏には、津田先生の、1対1の時間における丁寧な学びの見取りと、その学びの過程を踏まえた絶妙な自立課題の設定がありました。



# 学びの実感を積み重ねる子ども発見！

# 特別支援学校 高等部「生活単元学習」

## 「夢や目標に向かって、日々の生活課題に自ら向き合う」姿

**単元名** 「マイチャレンジでよりよい生活の仕方を考えよう！！」【4/5時】  
**本時の目標** 将来の夢を実現するための取組を「マンダラート」に書き出す活動を通して、家庭でのよりよい過ごし方について考え、具体的な取組について決めることができる。(思考・判断・表現)

図2 マイチャレンジの例（主に家庭の部分を選択）

### 本時の授業について ~よりよい生活の仕方について考える授業~

本単元は、社会人としての生活を数年後に控えた子どもが、夢を実現するために、就労や今後の生活を踏まえて自分の生活を見直し、計画を作成し、実践する学習です。

単元のはじめに、子どもは中長期（半年～1年）の目標を考えました。その際、マンダラート（図1）を用いました。生活を見直すキーワードを示すと、子どもは自分の課題を細かく洗い出すことができました。

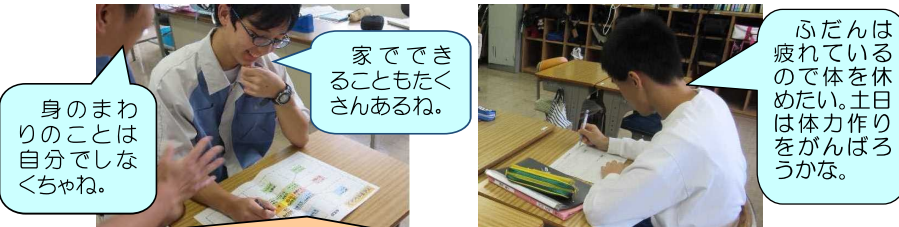
本時は、このマンダラートを基に、どのような取組を設定したらよいかを「マイチャレンジ」（図2）に記入していきます。主に家庭での過ごし方（ところと体の健康、身のまわりのこと、生活習慣）を見直すことに視点を当てて活動する場面です。

- ※ マンダラート：9つのマスを埋めていくことでアイデアを整理・外化し、思考を深めていく手法。
- ※ マイチャレンジ：自分自身で考える行動計画です。個別の指導計画と連動させながら生徒が主体となって取り組むための方法。

図1 マンダラートの例（学校、家庭の取組）

### 思考を助けるワークシート

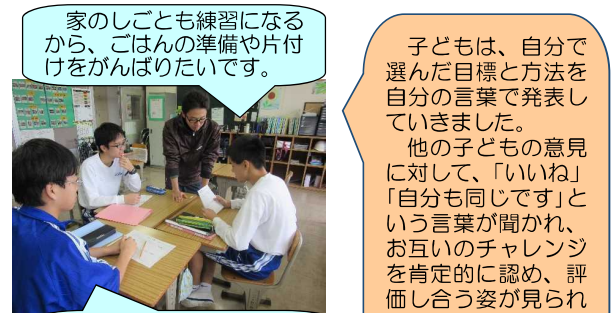
高等部の子どもにとって、自分の目指す目標と家庭生活をつなげて考えることはやや難しい課題です。そこで松本先生は、マンダラートを拡大して黒板に示し、立派な社会人になるための8つのキーワードを視点に自分を振り返る時間をとりました。子どもは、自分にとって重要だと考える3つの項目を選び出す活動に取り組みました。そして「自分の生活を見つめ直してみよう」の合い言葉で、マイチャレンジ（図2）を作成し、「未来のぼく、わたし」「1年間の目標」を考えることができました。



事前にキーワードを確認することで視点が絞られ、家庭での生活について主体的に考えることができました。また、マンダラートに赤丸を付けることで、自分の頑張ること、やるべきことをマイチャレンジに書き込むことができました。

### やる気を促す仲間との関わり

日々の課題への取組も、友だちと一緒に頑張れる子どもたちです。松本先生は、自分で作った目標を3人のグループで発表し合うようにしました。そして、お互いのよいところを1つずつ伝え合うようにしました。



すごいね。自分は運動に挑戦しようかな。

### 個の活動の見届けと支援

子どもの中には、課題を整理することが難しく、マイチャレンジに何を書いたらよいか迷う子どももいました。そこで、保護者から提供された「生活の現状や課題」の情報を基に、「今できていること」を子どもに質問し、家での過ごし方を順番に書き出し、考えを視覚的に整理するを行いました。

また、新たな取組を計画する際には、活動を示したイラストを提示しました。視覚化したことで、子どもは、活動を選択したり、計画に入れたりするなど、自らの判断で具体的な方法を決定することができました。

目標に対する教師の見届けと評価により、日々の生活課題に積極的に向き合う子どもの姿を引き出すことができました。